



JICA北陸設立25周年 特別企画

JICA北陸 北陸三県「事業紹介」

夏号から新春号までの3号にわたり
北陸三県の「事業トピック」について紹介します！
秋号の今回は富山編です。



《青年研修事業》 ベトナム/地域における 観光振興コース!



7月20日から8月1日までの約2週間、ベトナム国から15名の観光振興分野の業務に従事する若手行政官や関係機関の職員が来日し、富山県や石川県における観光開発に対する施策・制度や支援体制等について学びました。また、県内の民間企業や観光施設を訪問し、観光資源を活用した取組等についても学びました。帰国後は、日本で学んだことを活かして、ベトナムが観光大国になることを期待しています♪

《草の根技術協力事業》 イタイイタイ病の経験をインドネシアに伝える 富山発の環境教育プロジェクト(第2フェーズ) 研修員8名来県!



本事業は、インドネシア・南タンゲラン市の小学校に教科「環境」の導入を支援した第1フェーズを引き継ぎ、同教科を中学校に導入することを目指し、富山県を拠点に活動する一般社団法人インドネシア教育振興会により実施されています。8月28日～31日には、現地でカリキュラムや教材作成に携わる大学や学校関係者8名が来日し、富山県内の施設や立山を視察しました。

教師海外研修 フィジー 実施報告

7/25から8/4まで、教師海外研修でフィジーを訪問しました。学校訪問だけでなく、現地NGOや日系企業を訪問したり、またホームステイなど様々な体験を通して、多面的にフィジーという国を見聞きし、理解を深めた11日間となりました。



小学校を訪問して日本文化を紹介しました。

フィジーでは11人の先生方と一緒に悩んだり笑ったり考えたり、本当に充実した、濃い時間を過ごすことが出来ました。そして石川県出身の青年海外協力隊員の方達を訪問し、精一杯活動されている姿を拝見しました。全員刺激を受けて日本に帰って来ました!



青年海外協力隊の勤務先(病院)で。



参加した先生からのコメントをご紹介します。

「小学校を訪問した時に、子どもたちの目がとても輝いていました。学ぶ楽しさを知っている、また、これから始まる活動を期待するわくわくした目でした。この目を日本でも何度も見たいと、教師としての使命感を感じました。子どもの目が輝く授業を作っていかなければならないと改めて感じ、国境を越えても、私は子どもが大好きで、教えてあげたい、一緒に学びたいという気持ちは強く、変わらないのだと思いました。」

「私は日本にいる時よりも積極的にコミュニケーションを取っていました。自分にこんな力があつた、と知らない自分にたくさん気付くことが出来ました。ホームステイ先の家族だけでなく、街に出ると全く知らない人が親切にしてくれたり、挨拶をしてくれたりする。自分が受け入れてもらえているという安心感で、どんどん自分も積極的になっていくのが分かりました。そして、自分も相手を幸せに出来る、温かさを与えられる人になりたいと強く思いました。」

青年海外協力隊員 現地からの声

from タンザニア

山口 真人さん
Makoto Yamaguchi
富山市出身
■派遣国/タンザニア
■職種/数学教育

熱血指導中!!

日本からの自転車

授業風景

派遣国のタンザニアは自然に恵まれた緑豊かな国で、サファリを目的として外国人がたくさん来ます。日本とのつながりは意外なところにあつて、例えば自転車。日本の放置自転車が生徒たちの通学用に寄付されています。中学生の授業は英語で行うのですが、苦手な生徒が多いので工夫が必要です。生徒に自分で教材を作らせてみたり、数学係の生徒に補習させて授業で説明させてみたり。色々工夫して、生徒の学力向上につながるよう貢献したいです。

派遣前から帰国までJICAボランティアを追う!!

梨杏里 Family が Really? 04 視察編

田畑 梨杏里さん
Riari Tabata

石川県・七尾市出身。職種は障がい児者支援で、派遣国はサモア。高校生の頃から海外に住んでみたいという夢を持ち、青年海外協力隊に参加。

1日目 サモア感満載なビーチファレ※に滞在。両親は壁のないビーチに立ち並ぶ寝床に驚き、寝付けなかったとか…。ビーチファレで、ピアノ演奏を披露するための練習。演奏の音を聞いたサモア人達が寄ってきて、拍手喝采!(笑)
※サモア特有の建物、高床式の家に蚊帳とマットのある家

2日目 いつもお世話になっているサモア人家族の家で、日本から来た私の家族のために歓迎会をしてくれました!

3日目 サモアの学校で、日本の皆さんから寄贈頂いたピアノとリコーダーの演奏をした後、学校に寄贈しました。下手くそな演奏で申し訳なかったけど、子供たちと一緒に演奏できて楽しいひと時でした。夜はサモアに派遣中の隊員と一緒にご飯を食べました。

4日目 マーケットや、観光地巡り、わいわいと家族で楽しんだ4日間のサモアでの視察旅行でした。

《梨杏里さんのお母さんからのコメント》
サモアの首都アピアの空港で、腰にラババ(布)を巻いた娘に再会。現地のご家族に招待され、豚の丸焼きやタロイモなどの郷土料理と、子供たちのダンスで大歓迎を受けました。娘から「楽器があれば…」とメールがあり、知り合いに話すと、たくさんの鍵盤ハーモニカとリコーダーが集まり、リコーダーの贈呈に訪れた小学校と、特別支援学校で児童たちと「ミニ演奏会」をしました。持ち前の明るさと人懐っこさで、青年海外協力隊員として、現地に溶け込んでいる娘が輝いて見えました。
※今回、JICAで実施している、「世界の笑顔のために」プログラム(開発途上国で必要とされている物品を日本国内で募集し、世界各国へ届けられるプログラム)の為に、田畑さんご家族にご協力いただきました。